

滝尾駅前広場整備基本計画

概要版

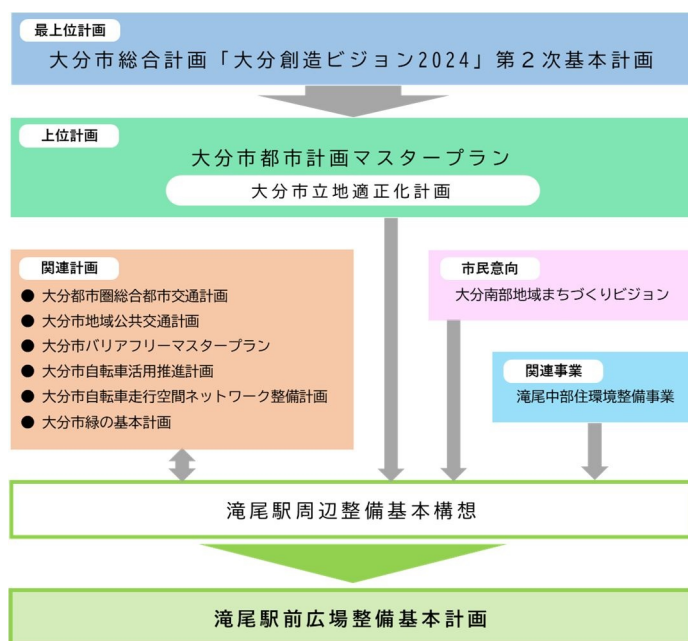
1. 目的と位置づけ

JR滝尾駅の周辺は、都心部へのアクセスの良さを持ちながら、身近に農地や緑地、歴史的資源が点在する魅力的な地区です。

本地区は、旧肥後街道沿いの集落から発展した歴史ある市街地で、現在に至るまで大きな機能更新が行われておらず、時代のニーズに沿ったまちづくりが求められています。

このような背景から、2023年(令和5年)3月に、「滝尾駅周辺整備基本構想(以下、「基本構想」という)」を 策定し、今後具体的な施策を順次展開していくこととしています。

「滝尾駅前広場整備基本計画」は、特に駅前広場と駅周辺の将来像について、整備方針や空間構成などを定めることを目的としています。



2. 計画の対象

本計画の対象は、都市計画決定された駅前広場区域を対象とします。

なお、基本構想における他の取組とも密接に関連しており、より多角的な視点が求められることから、都市計画道路滝尾駅前線(以下、「(都)滝尾駅前線」という)や駅周辺の整備も考慮した計画とします。

都市計画決定の概要

告示日:1949年(昭和24年)1月31日
計画面積:3000㎡(約78m×約40m)



第1章 滝尾駅周辺を取り巻く状況

1. 滝尾駅周辺の概況

1-1. 人口動向

- 本地区が含まれる滝尾・森岡校区の2023年(令和5年)の人口は17,110人で、微増傾向にあるものの、少子高齢化が進んでいます。

1-2. 交通環境

- 本地区の主要な道路ネットワークは、市道下郡宮崎大通り線や、市道片島松岡バイパス2号線を中心に構成されていますが、地区内の道路には、4m未満の狭あい道路が多く見られます。
- 路線バスは、本地区の主要道路を運行しており、コミュニティバスは地区内を運行しています。しかし、どちらのバスもJR滝尾駅に接続されていません。

1-3. 都市計画法規制(用途地域)の状況

- 本地区の用途地域は主に第1種中高層住居専用地域が指定されています。
- (都)滝尾駅前線及び滝尾駅前広場の沿道30mには、第1種住居地域が指定されています。

1-4. 土地利用の状況

- 本地区の土地利用状況は主に住宅用地となっており、近年、田畑から住宅用地への転用が進み、住宅開発が進行しています。

1-5. ハザードエリアの状況

- 本地区のほぼ全域において、洪水時には3m～5mの浸水が想定されています。
- 碓島(碓山)及び森岡小学校周辺は、土砂災害特別警戒区域等が指定されています。

1-6. 歴史的資源の状況

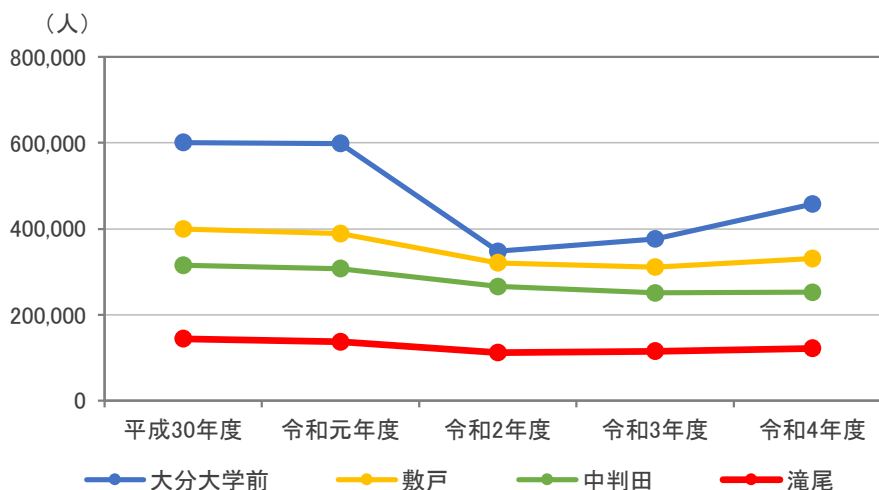
- 本地区には、県指定文化財である曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑をはじめ、参勤交代のために整備された旧肥後街道等の歴史文化資源が点在しています。

2. 滝尾駅の状況

2-1. 鉄道の利用状況

- JR滝尾駅は、大分市内で4番目に乗車人員が少なく、2022年度(令和4年度)における乗車人員は121,910人、日平均乗車人員は334人です。

- 豊肥本線の各鉄道駅別乗車人員の推移



第1章 滝尾駅周辺を取り巻く状況

2-2. 滝尾駅前の交通状況

(1) 交通量調査

交通量調査は、2023年(令和5年)12月17日(火)6:30~9:30の間に実施し、最も交通量の多かった1時間(ピーク1時間)は、7:20~8:20の間でした。

a. 駅利用と通過の割合

① 自動車

ピーク1時間に駅前交差点を通過した自動車268台のうち、駅を利用した自動車(送迎車)は6台(2%)となっており、通過交通が多い状況です。

② 自転車

ピーク1時間に駅前交差点を通過した自転車68台のうち、駅を利用した自転車は49台(72%)となっています。

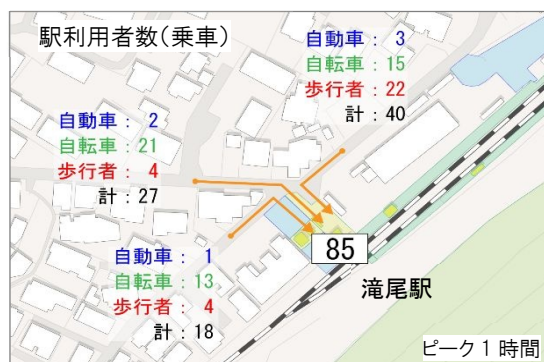
③ 歩行者

ピーク1時間に駅前交差点を通過した歩行者98人のうち、駅を利用した歩行者は30人(31%)となっています。

b. 駅利用者の交通手段

ピーク1時間の駅利用者は、乗車利用は85人、降車利用は27人となっています。駅利用者の主な交通手段としては、乗車、降車ともに自転車・徒歩となっています。

① 乗車利用者の交通手段



② 降車利用者の交通手段



(2) 駐輪場の利用状況

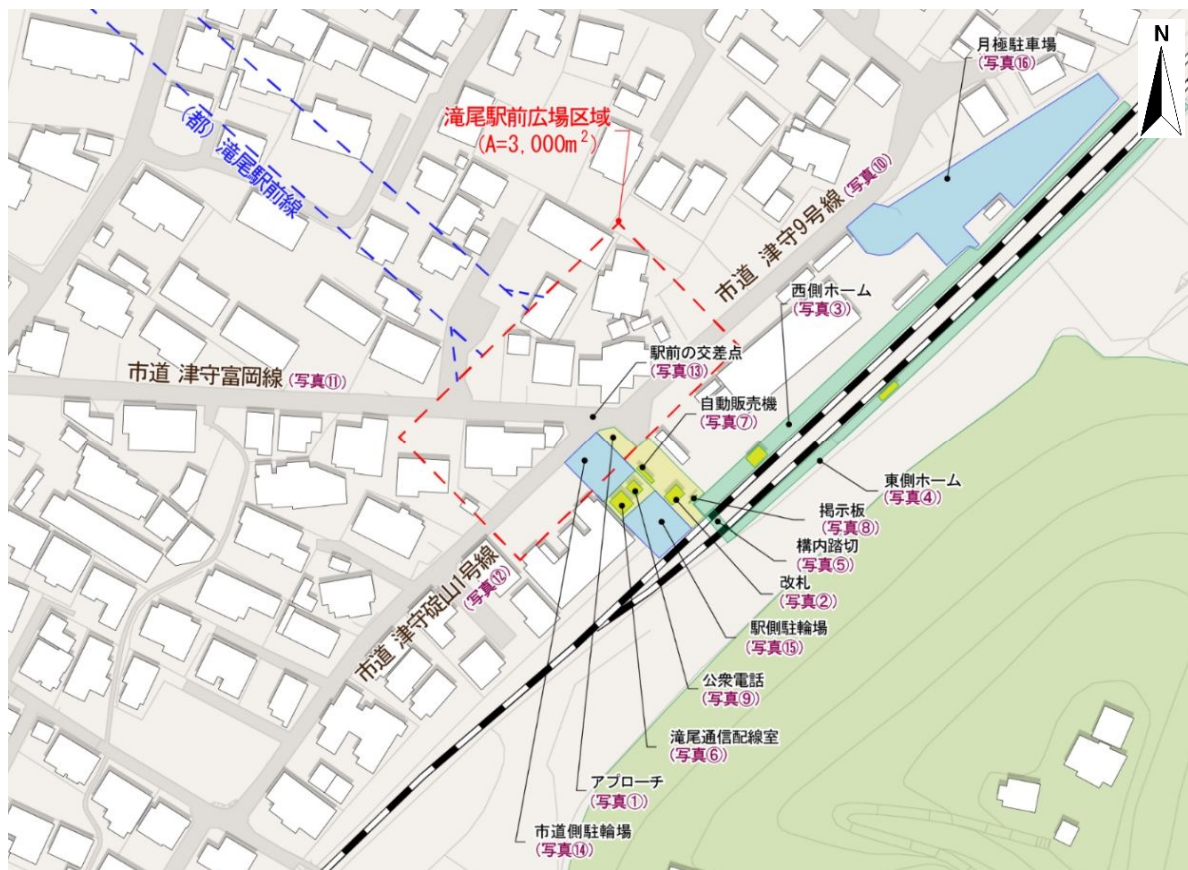
調査当日の駐輪場利用は最大で114台となっています。

調査開始時点では80台が駐輪されており、34台増加しています。



第1章 滝尾駅周辺を取り巻く状況

2-3. 滝尾駅および周辺の現地状況



駅構内の機能

写真①(アプローチ)



写真②(改札)



写真③(西側ホーム)



写真④(東側ホーム)



写真⑤(構内踏切)



写真⑥(滝尾通信配線室)



写真⑦(自動販売機)



写真⑧(掲示板)



写真⑨(公衆電話)



第1章 滝尾駅周辺を取り巻く状況

周辺道路

写真⑩(市道 津守9号線)



写真⑪(市道 津守富岡線)



写真⑫(市道 津守碓山1号線)



写真⑬(駅前の交差点)



駅周辺の機能

写真⑭(市道側駐輪場)



写真⑮(駅側駐輪場)



写真⑯(月極駐車場)



3. 市民意向の把握

地域住民の意見を反映するため、ワークショップや、自治会長や地元代表者などで構成する地元会議を開催し、意見交換を行いました。

● 地域住民が認識する問題点

交通	・ 駐車場がない。 ・ 駐輪場の管理が行き届いてない。(放置自転車) ・ バス停がなく、バスとの乗り換えがしづらい。 ・ 車の乗降スペースがなく、送迎にくい。	景観	・ ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。 ・ にぎわいがなく、夜間に暗いなど景観的にさみしい。
拠点	・ 駅の近くに保育園等の子育て支援機能がない。 ・ 駅の近くに買い物できる場所がない。	サービス	・ 時計がない。 ・ トイレがない。
交流	・ 駅前でゆっくりするスペースがない。 ・ イベントや情報発信等自由に使える空間がない。	防災	・ 街灯が少なく、駅周辺が暗い。 ・ 駅周辺の道路が狭く、緊急車両が入りにくい。

● 地域住民が駅前広場に求めること(ニーズ)

- ・ 子どもたちに青空授業がしたい。
- ・ 子どもと広場で遊びたい。
- ・ フリーマーケットなどのイベントがしたい。
- ・ 友達と会ったり集まったりして話がしたい。

第2章 滝尾駅周辺の課題

1. 滝尾駅周辺の問題点と課題の整理

(1) 交通空間に関する課題

交通 問題点	課 題
・ 車の乗降スペースがなく、送迎しにくい。 ・ タクシー乗降場がなく、タクシーを利用しづらい。 ・ 車両が転回できるスペースがない。 ・ 時間貸し駐車場がない。 ・ 駐輪場は未舗装で、十分な管理が行き届いていない。 ・ 鉄道から他の交通への乗り換えがしづらい。 ・ 車いす等での移動がしづらい。	★交通機能を確保する施設の整備 乗降場（タクシー、自家用車等）、ロータリー、歩道など、交通機能を確保する施設の整備が求められています。 また、整備する施設は、バリアフリー化が求められています。 ★交通手段相互の乗り換えを円滑化 鉄道から他の交通手段への乗り換えが円滑にできる施設整備や配置が求められています。

(2) 環境空間に関する課題

交流 問題点	課 題
・ イベントや情報発信等で自由に使える空間がない。 ・ 雨天時や夏場に待合や休憩できる場所がない。 ・ 休憩したり、座ってゆっくりするところがない。	★まちの拠点や住民の交流の場の整備 人々が休憩や交流する場、イベントや情報発信ができるような広場が求められています。
景観 問題点	課 題
・ ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。 ・ 駅周辺に街灯がなく、夜は暗い。	★景観的に優れた広場の整備 植樹、シンボル施設等の設置による、景観的に優れた広場が求められています。
サービス 問題点	課 題
・ 時計がない。 ・ トイレがない。 ・ 歴史など、情報発信ができる案内板がない。	★サービス機能の充実 公衆トイレ、案内板・サイン等の公共的サービスの充実が求められています。

(3) 駅周辺に関する課題

駅周辺 問題点	課 題
・ 駅周辺の道路が狭く、緊急車両等が入りづらい。 ・ 駅周辺は狭い道路が多く、駅までアクセスしづらい。	★地区全体の利便性向上 駅に円滑にアクセスできる幹線道路の整備や、商業施設・子育て支援施設の立地など、生活利便性を高める土地利用の促進が求められています。

1. 滝尾駅前広場の将来像・基本方針

将来像

やすらぎとつながりを感じられるまちの交通・交流拠点

仕事や学校、買物を終えた帰路の途中、滝尾駅を降りると、まるで家にかえってきたようなやすらぎを感じられ、心がほっとする。休日には、穏やかにぎわいが生まれ、人とのつながりを感じられる。このような空間となることを目指し、滝尾駅前広場の将来像を設定します。

基本方針	取組
I. 駅利用者の利便性向上 多様な交通手段を利用できるよう、交通結節機能を強化し、地区の玄関口として誰もが安全で快適に利用できる駅前空間を創出します。	1) 交通結節機能を有する施設を整備します。 (タクシー・バス・自家用車乗降場、自家用車短時間駐車場、駐輪場、車道など) 2) 鉄道と各種交通の乗継ぎを円滑に行える施設配置および移動動線の確保を行います。 3) 高齢者や障害のある人を含む、すべての人々にとって利用しやすい空間づくりを行います。
II. ゆとりを感じさせる居心地よい空間の創出 家族や友人などとゆっくりとくつろいだり、ペットと散歩したり、日常の中にゆとりを感じられる空間を創出します。	1) 植樹、緑化等を図り、良好な景観を創出します。 2) ベンチなどの休憩施設を設置します。 3) 案内板や公衆トイレなどのサービス機能の充実を図ります。 4) 夜間や雨の日、猛暑の日なども安心して駅を利用できるよう、待合環境の改善を行います。
III. 豊かなコミュニティを育む柔軟な活用ができる空間の創出 地域で採れた食材を朝市で販売したり、マルシェやキッチンカーで買い物を楽しんだり、日常の中にささやかなにぎわいを生み出す、誰もが活用しやすい空間を創出します。	1) 人々の交流の場を確保するため、空間利用の自由度が高く、柔軟に活用可能なオープンスペースを確保します。 2) 駅前広場の利用者の安全性を確保するため、流入交通の調整を検討します。
IV. 駅を中心とした暮らし環境の向上 都心部との近接性と豊かな自然環境の両方を備える、滝尾駅周辺地区の居住環境としてのポテンシャルを最大限に引き出すため、駅前空間の充実や駅へのアクセス性の改善を図り、地域価値の持続的な向上を目指します。	1) 駅前広場整備に伴い、多様な主体と連携し、本地区の顔となる駅前空間を実現します。 2) 駅前広場へと接続する幹線道路を整備します。

第4章 滝尾駅前広場整備基本計画

1. 滝尾駅前広場の整備計画

1-1. 滝尾駅の将来利用者数の推計

人口動向やまちづくりの動向などを踏まえた結果、2045年(令和27年)には乗降人数は現状と同程度の760人程度になると推計しています。

現状値:752 人(2019 年度) ⇒ 推計値:760 人(2045 年度)

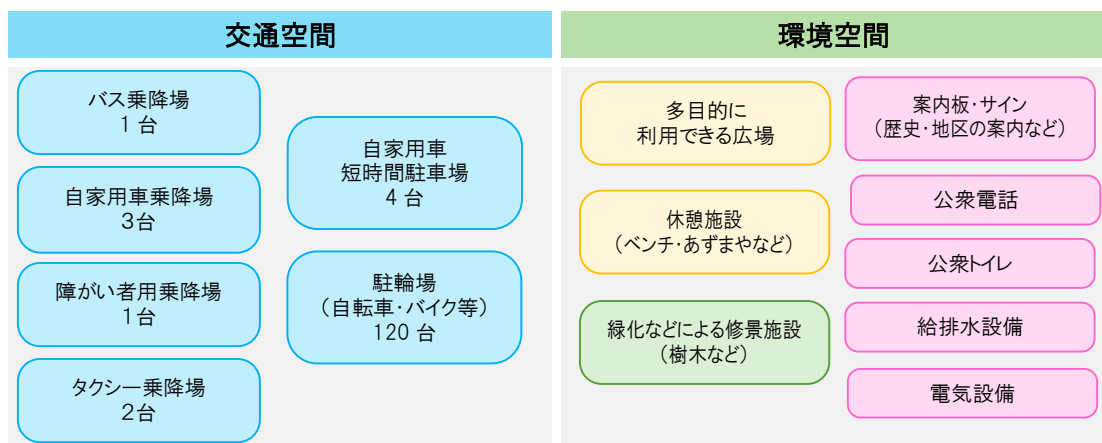
1-2. 滝尾駅前広場の交通空間に最低限必要な施設規模

前項で設定したJR滝尾駅の将来利用者数を基に、パーソントリップ調査や大分市内の鉄道駅の事例などを参考にして、滝尾駅前広場に最低限必要な施設規模を設定します。

	バス 乗降場	自家用車 乗降場	タクシー 乗降場	自家用車 短時間駐車場	駐輪場 (自転車・バイク)
滝尾駅の現況	0	0	0	0	105
最低限必要な 施設規模	1	4	1	4	111

1-3. 滝尾駅前広場の導入施設

将来の駅利用者推計を基に算出された施設規模や、地元会議・ワークショップでの意見を踏まえて、以下の施設を導入します。



第4章 滝尾駅前広場整備基本計画

2. 滝尾駅前広場の配置計画

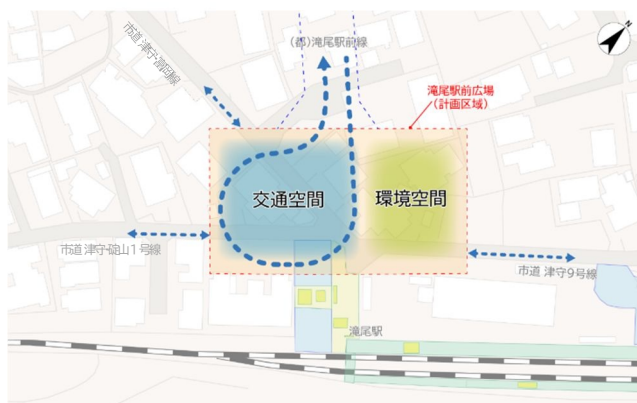
(1) 滝尾駅前広場の空間配置

交通結節機能を担う「交通空間」と都市の広場としての役割を担う「環境空間」を配置します。



(2) 車両の動線計画

車両の動線は、(都)滝尾駅前線からの流入・流出を主要な動線とし、駅前広場内を右回りの一方通行のロータリー形状とします。



(3) 歩行者の動線

歩行者の動線は、(都)滝尾駅前線とJR滝尾駅をつなぐ線を主要な動線とし、自家用車、バス、タクシーの待機スペースなどの滞留空間と交差しないように配置します。

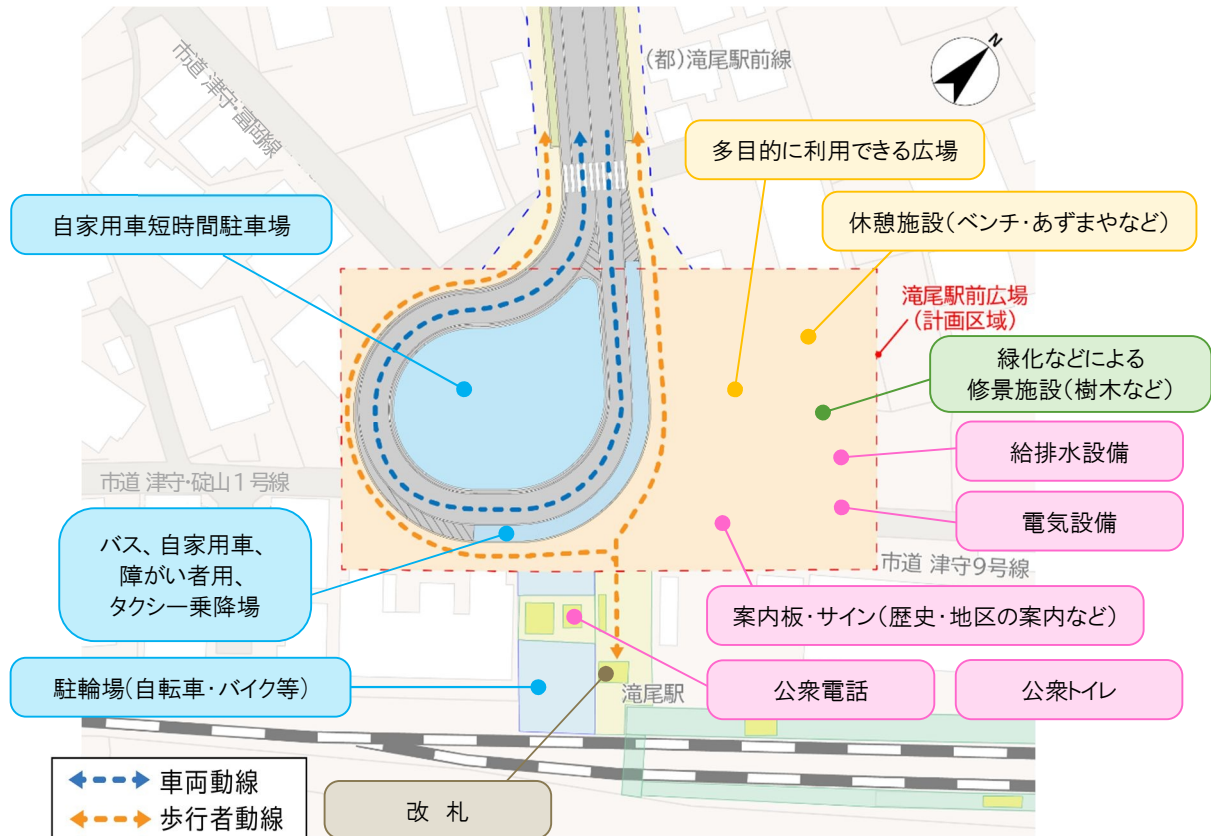


第4章 滝尾駅前広場整備基本計画

3. 基本計画図

滝尾駅前広場の整備計画および配置計画に基づき検討した基本計画図を下図に示します。

この基本計画図では、駅前広場への交通集中を防ぎ、安全な空間を確保するため、接続道路を主要動線である(都)滝尾駅前線のみとし、市道津守・富岡線などの既存道路から流入する交通を調整することを理想的な形として示しています。



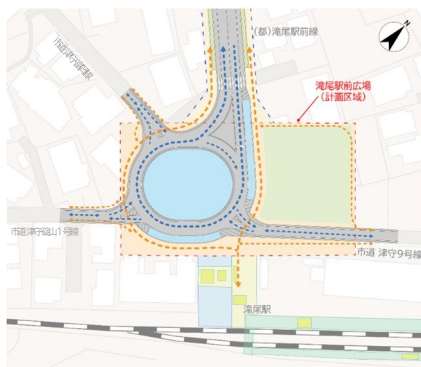
4. 計画実現に向けて

滝尾駅前広場計画区域には3つの既存道路が接続しており、駅前広場への交通集中を防ぎ、安全な空間を確保するため、既存道路から流入する交通を調整する必要があります。

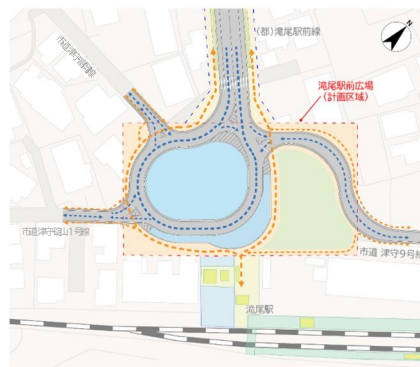
なお、駅前広場への交通調整については、滝尾駅前広場および(都)滝尾駅前線の整備手法と関連があるため、今後、整備手法と併せて検討する必要があります。

参考として、既存道路を駅前広場に接続した場合の案を下図に示します。

既存道路線形に配慮した案



環境空間の活用形態に配慮した案



発行・お問い合わせ

大分市都市計画部 まちなみ企画課

〒870—8504 大分市荷揚町2番31号

TEL:(097)534-6111 FAX:(097)534-6120

E-mail:matikikaku@city.oita.oita.jp